



2008年2月6日園長室にて

長い鼻を使って砂浴びをするゾウ。のんびりとアカシアの木の葉を食べるキリン。親子でじゃれあうハイエナやライオンもいる。通天閣が見える大阪のど真ん中から、しばしアフリカのサバンナやアジアの熱帯雨林に誘ってくれる天王寺動物園。三十余年にわたり動物を見守ってきた園長の宮下実さん(58歳)は、動物にも地球にも、そして人にも優しいオアシスをめざし、職員一丸となって新しい動物園づくりに邁進している。

「ZOO21計画」

大阪市天王寺動物園は1915(大正4)年、日本で3番目の動物園として開園。府内外から訪れる家族連れらの憩いの場、子どもたちの学習の場などとして親しまれている。現在は約11ヘクタールの園内に、約230種1000点の動物を飼育している。

94年には野生動物の種保存や環境教育を柱とし、動物園の活性化を図る「ZOO21計画」の基本計画を策定。動物が野生で生息する環境を再現する「生態的展示」の手法を採用入れ、動物舎の建て替えなどを進めている。06年までに約3分の1が完了した。

この計画を最も喜んでいるのは動物たちだ。「かつてはコンクリートの上で生活し、暑い日差しをささざる木陰もない環境だった。今は敷地も3倍になり、植物もいっぱいある。土の上を思う存分に歩き回っていますよ」。巨大なゾウの建物を屋上・壁面緑化するなど人工物になるべく見えないようにと工夫され、まるで野生動物の棲家に紛れこんだかのような心地にさせてくれる。

民間の力活かして

「ZOO21計画」は当初、300億円の予算で27年かけて実行する予定だった。しかし、今の大阪市の財政を踏まえても「残りの計画を終

えるのは50年かかってもむずかしい」と頭を抱える。入場者数は、2006年度比42万人増の年間180万人を超えるまでになったが、まだピーク時には及ばない。

そこで新たに取り組み始めたのが、民間の力の活用である。昨夏には、入園者の増加、魅力向上につながるサービスや商品の提案をベンチャー企業などから募集。約120件の提案が寄せられ、「我々職員では思いもつかないようなユニークな案ばかり」と喜びの声を上げた。

早速、外国人講師が動物の名前や鳴き声を英語で紹介するイベントや、動物を組み立てる工作キットの販売などの提案から実現。さらに、フリーペーパーの発行(隔月、10万部)や、携帯電話で動物の画像や鳴き声を取得できるサービス、オリジナルグッズの製作などの準備を進めている。「雨天時の来園者への傘の無料配布、ネーミングライツ(命名権)の導入も実現したい」と意気込んでいる。

緑の少ない大阪のオアシスに

さまざまな改革が進む中、職員の意識も変わってきた。90周年事業の一環として週末だけ取り入れた、動物の生態や飼育の裏話などを紹介するワンポイントガイドは、今は毎日行っている。「飼育係はエンターテイナーとなって、入園者に喜んでもらおうと張り切ってやっている。北海道の旭山動物園に負けるものかと笑)」

園長になって3年。デスクワークも増えて多忙な日々を送るが、少しでも時間が空けば園内を歩く。「クロサイのさっちゃん元気かな、なんて思いながら昔なじみの動物の顔を見に行く。ほっとしますよ」。大好きな動物たちから力ももらいながら、大阪の貴重な財産である“街の真ん中のオアシス”に新しい風を吹き込んでいる。

(文・江中咲紀 / 表紙写真・高島悠介)

CLOSE
クローズアップ
UP

め優動
ざし物
しいに
てオも
ア人
シに
スも
を

プロフィール

天王寺動物園 園長

みや した みのも
宮下 実さん



1950年、大阪市生まれ。73年大学卒業と同時に、天王寺動物園の獣医師となる。その後、原虫や線虫類の研究を行い、「アライグマ蛔虫の幼虫移行症に関する研究」で学位取得(医学博士)。海外の多数の動物園や野生動物保護区、国立公園などを視察。日本動物園水族館協会理事、日本野生動物医学会評議員、動物臨床医学会編集委員、保全繁殖専門家集団会員。大阪市立大、大阪府立大非常勤講師。2005年4月に園長に就任。

【メモ】

昨年10月から天王寺動物園サポーター制度を発足。個人サポーターは一口5千円で登録証発行(提示により、登録期間内10回まで入園無料) 入園時に登録証を提示すれば記念品進呈 特別イベントへのご優待 動物園売店一部商品割引。団体サポーターは一口5万円で 団体名入りネームプレートの園内掲示(動物園内で2カ所) 優待入場券発行(一口につき10枚)。各1年間有効。問い合わせは天王寺動物園事務所=06(6771)8401。